

HMK
HAMAKYOREX

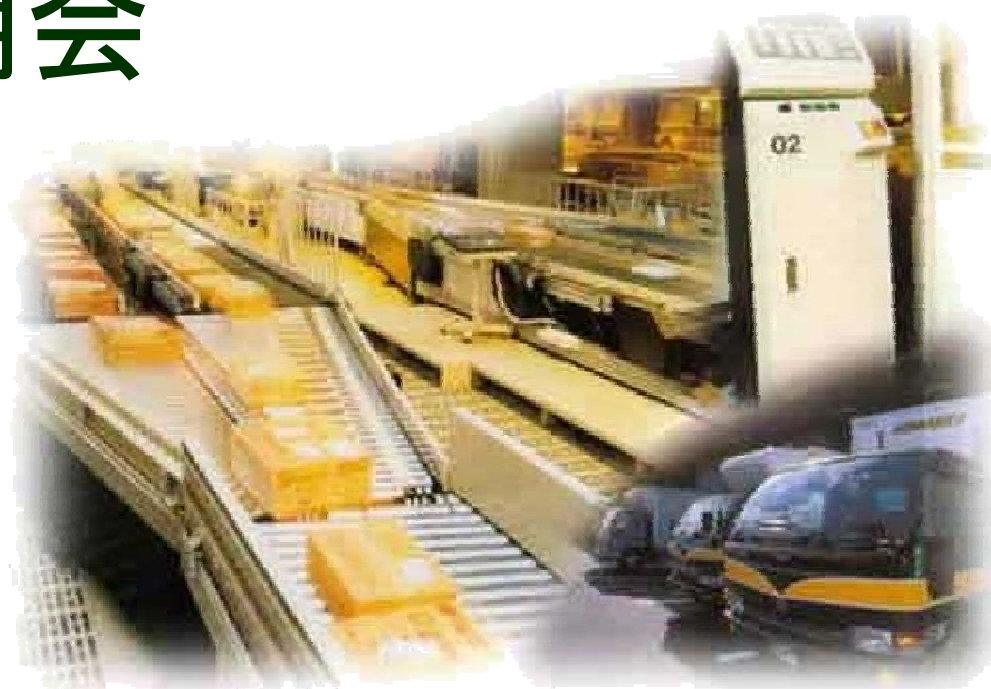


2012年3月期 決算説明会

2012年 5月 16日

株式会社ハマキョウレックス

東京証券取引所市場第一部：9037



- I. 会社概要
- II. 2012年3月期 決算概況
- III. 2013年3月期 計画 及び 中期経営計画
- IV. 2012年3月期 決算実績
- V. 近物レックスの現況と今後の戦略
- VI. 参考情報

I . 会社概要

I-1. 経営理念



「物」に携わる者として、

「人と接するときは、**心**を込めて」

「仕事をするときは、**初心**を忘れず前向きに」

「物を扱うときは、**心**を込めて丁寧に」

「物を運ぶときは、**心**を込めて安全に」

「如何なるときにも感謝の**心**を大切に」

を基本テーマに取組んでおります。

I-2. 経営方針

物流の役割は駅伝でいえば最終ランナー、
地味ではあるが信頼された重要な存在。
当企業グループは信頼に応えて効率的な事業活動の
展開と継続的で質の高い成長を図り、
お客様第一、品質第一を基本に、企業としての
社会的責任を果たしてまいります。
また、短期的な収益にとらわれず、
長期的な視点に立った経営を行い、3PL物流における
質的内容の日本一を目指します。



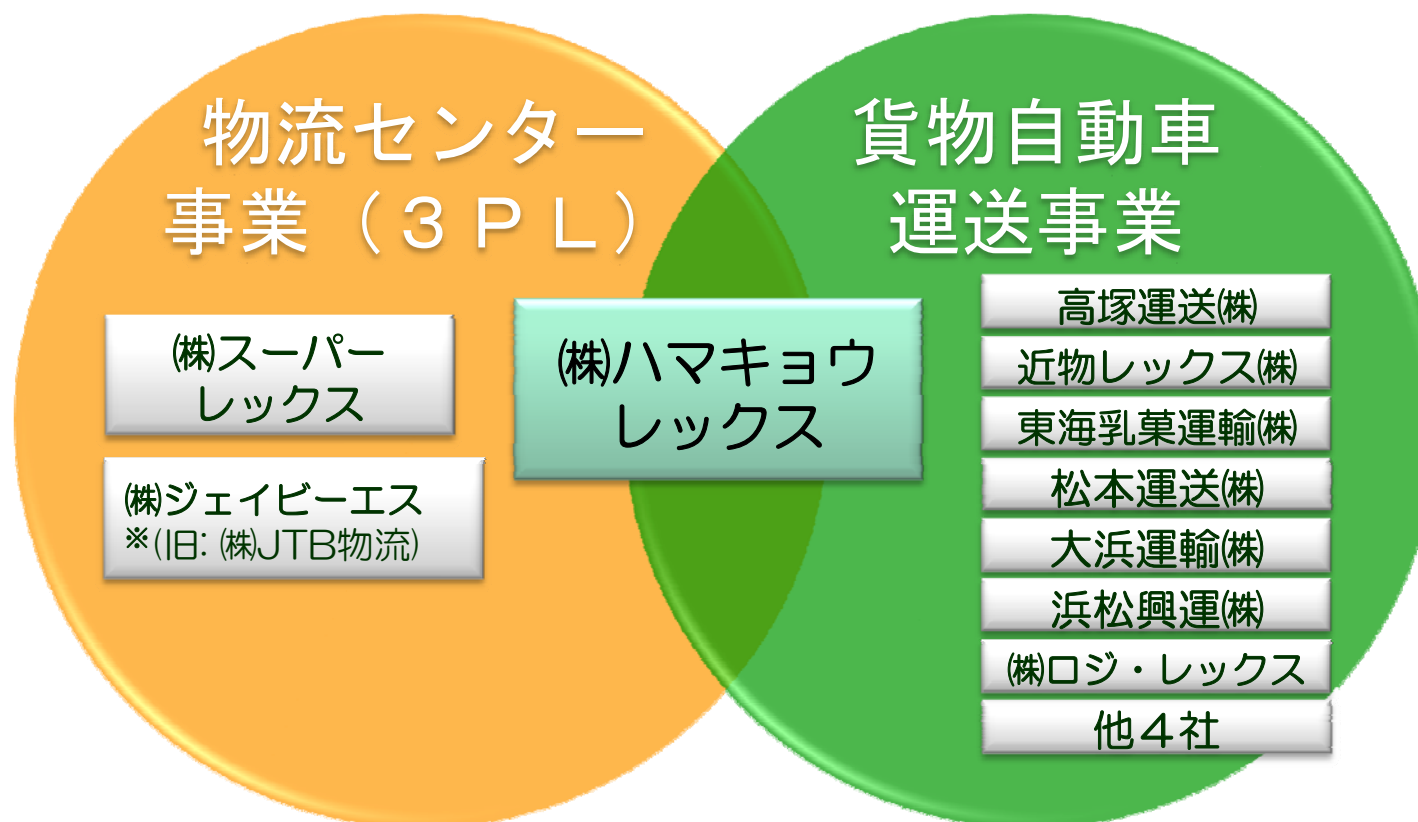
I-3. プロフィール

会社概要(2012年3月31日現在)

- 社 名 株式会社ハマキョウレックス
(HAMAKYOREX CO., LTD.)
- 設 立 昭和46年2月
- 資 本 金 40億4,505万円
- 決 算 期 3月31日
- 従 業 員 数 連結 4,054名、単体 673名
- 発 行 済 株 式 数 8,356,000株
- 株 主 数 3,357名
- 事 業 内 容 物流センター事業（3PL）、貨物自動車運送事業
- 連 結 子 会 社 12社
- 売 上 高 連結 899億3,504万円
(2012年3月期) 単体 341億7,262万円
- 経 常 利 益 連結 65億5,285万円
(2012年3月期) 単体 42億 227万円

I -4. 事業紹介

当社グループは、
物流センター事業と貨物自動車運送事業を中心に
展開しております。



※2012年4月2日より関連会社となりました。



Ⅱ. 2012年3月期決算概況

Ⅱ-1. 24年3月期の業績

営業収益は、 **899億 35百万円** （前年同期比 +5.1% ）
 経常利益は、 **65億 52百万円** （前年同期比 +8.4% ）の増収増益

項目	対前期比	対計画比 ※1	対前期比増減要因
営業収益 89,935百万円	+4,369百万円 (+5.1%)	△65百万円 (△0.1%)	・前期取得した連結子会社による増加 ・前期稼働センターの寄与
営業利益 6,528百万円	+732百万円 (+12.6%)	+128百万円 (+2.0%)	・物流センター事業の寄与 ・近物レックスの改善および収益増加による寄与
経常利益 6,552百万円	+507百万円 (+8.4%)	+202百万円 (+3.2%)	・営業利益の増加 ・各種助成金収入の減少
当期純利益 3,423百万円	+586百万円 (+20.7%)	+223百万円 (+7.0%)	・経常利益の増加 ・前期、震災損失・資産除去債務の計上によるもの

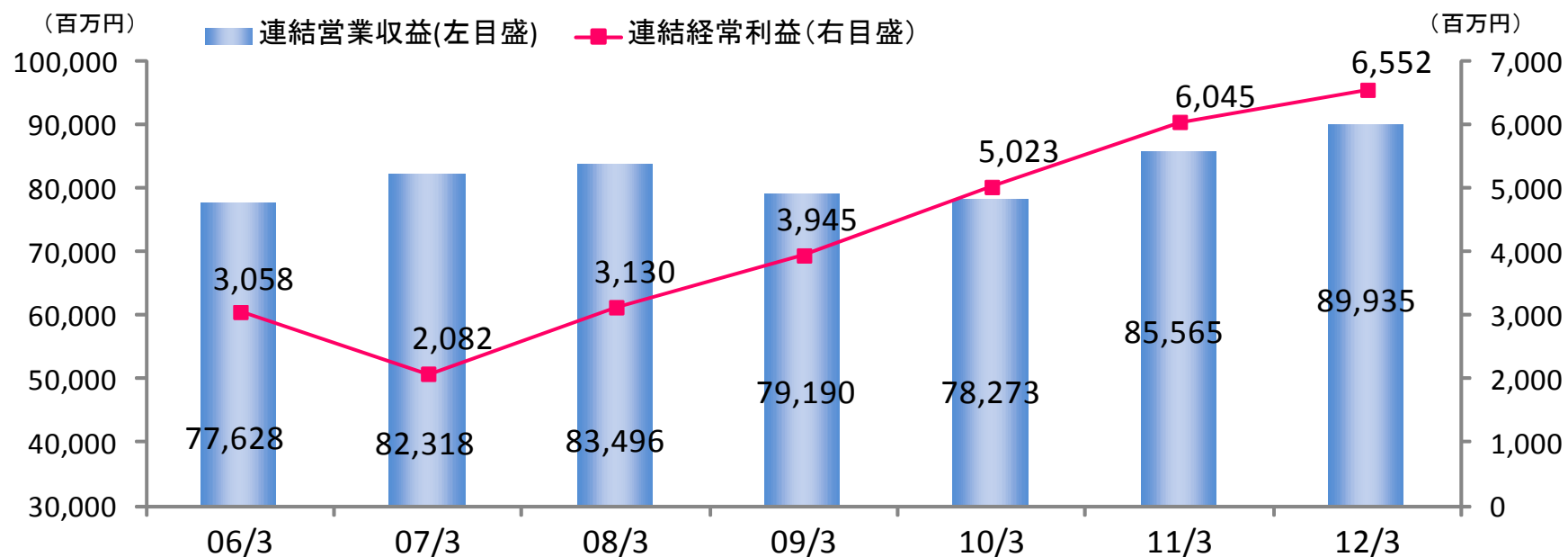
※1 計画は、2011/5/12発表数値

Ⅱ-2. 業績推移

(百万円)

	連 結						個 別	
	2008/3	2009/3	2010/3	2011/3	2012/3	増減額 (率)	2012/3	増減額 (率)
営業収益	83,496	79,190	78,273	85,565	89,935	+4,369 (+5.1%)	34,172	+2,595 (+8.2%)
営業利益	3,368	4,106	4,955	5,796	6,528	+732 (+12.6%)	4,051	+565 (+16.2%)
経常利益	3,130	3,945	5,023	6,045	6,552	+507 (+8.4%)	4,202	+548 (+15.0%)
当期純利益	1,495	1,674	2,396	2,836	3,423	+586 (+20.7%)	2,425	+405 (+20.1%)

Ⅱ-3. 収益構造



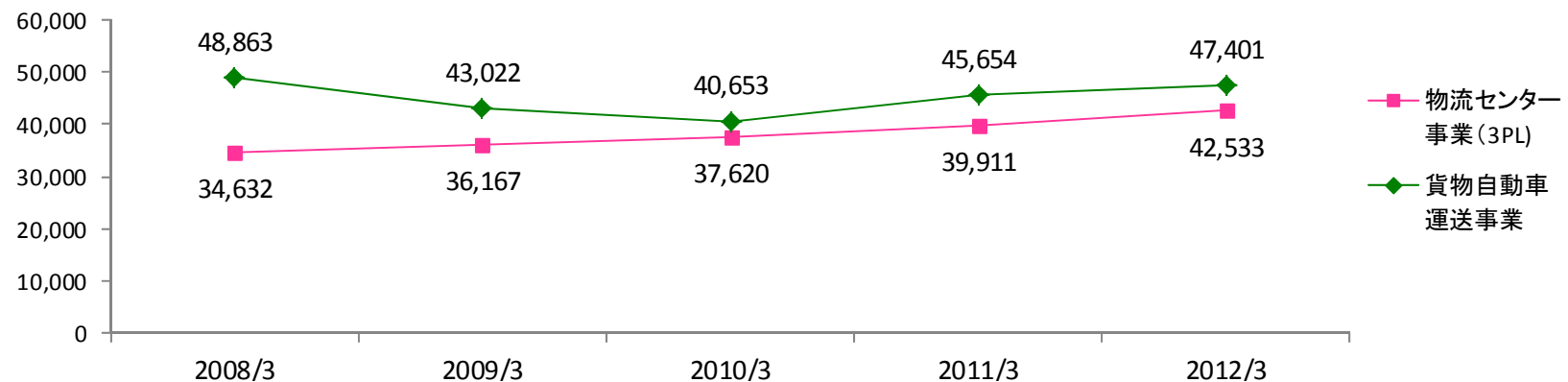
	連結業績	個別業績
営業収益	2期連続(過去最高)	20期連続(過去最高)
経常利益	5期連続(過去最高)	16期連続(過去最高)
当期純利益	5期連続(過去最高)	14期連続(過去最高)

Ⅱ-4. セグメント情報の推移

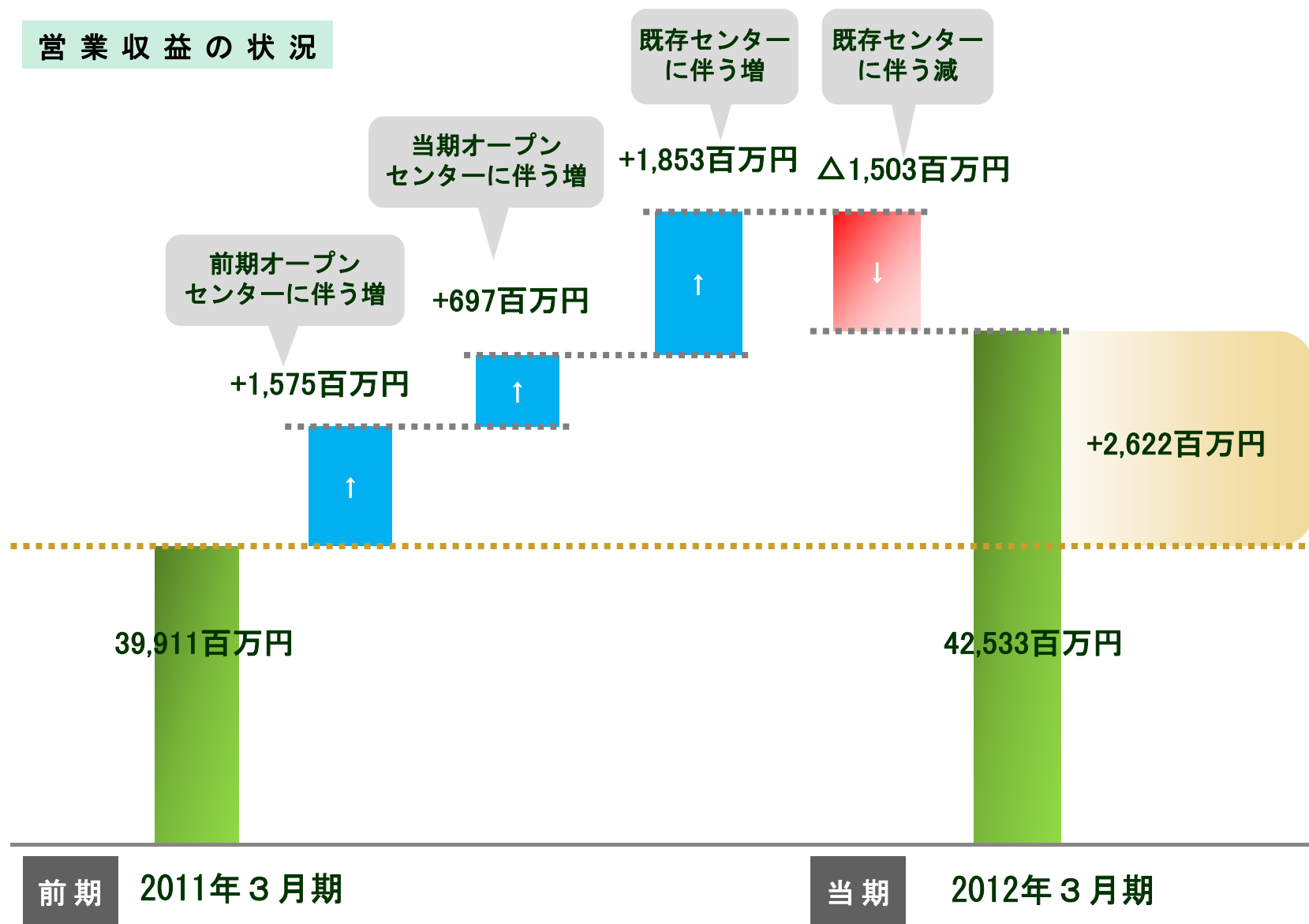
(連結:百万円)

		2008/3 (構成比:%)	2009/3 (構成比:%)	2010/3 (構成比:%)	2011/3 (構成比:%)	2012/3 (構成比:%)	増減 (増減率:%)
物流センター 事業(3PL)	営業収益	34,632 (+41.5%)	36,167 (+45.7%)	37,620 (+48.1%)	39,911 (+46.6%)	42,533 (+47.3%)	+2,622 (+6.6%)
	営業利益	3,148	3,861	4,284	4,625	5,208	+583
貨物自動車 運送事業	営業収益	48,863 (+58.5%)	43,022 (+54.3%)	40,653 (+51.9%)	45,654 (+53.4%)	47,401 (+52.7%)	+1,746 (3.8%)
	営業利益	219	243	669	1,166	1,315	+149

営業収益の推移



Ⅱ-5. 物流センター事業(3PL)の概況



Ⅱ-6. 物流センター事業の稼働状況

●新規受託及び稼働

取扱品目	前期受託 未稼働	当期 受託	稼働		当期 未稼働	memo
			既存※1	新規※2		
食品	2社	1社	1社	2社	－	
繊維・アパレル	1社	3社	1社	3社	－	
医薬・医療	－	4社	1社	1社	2社	当期受託2社
雑貨	2社	3社	2社	3社	－	
計	5社	11社	5社	9社	2社	

※1 既存の物流センター内に稼働した案件 / ※2 新規拠点にて稼働した案件

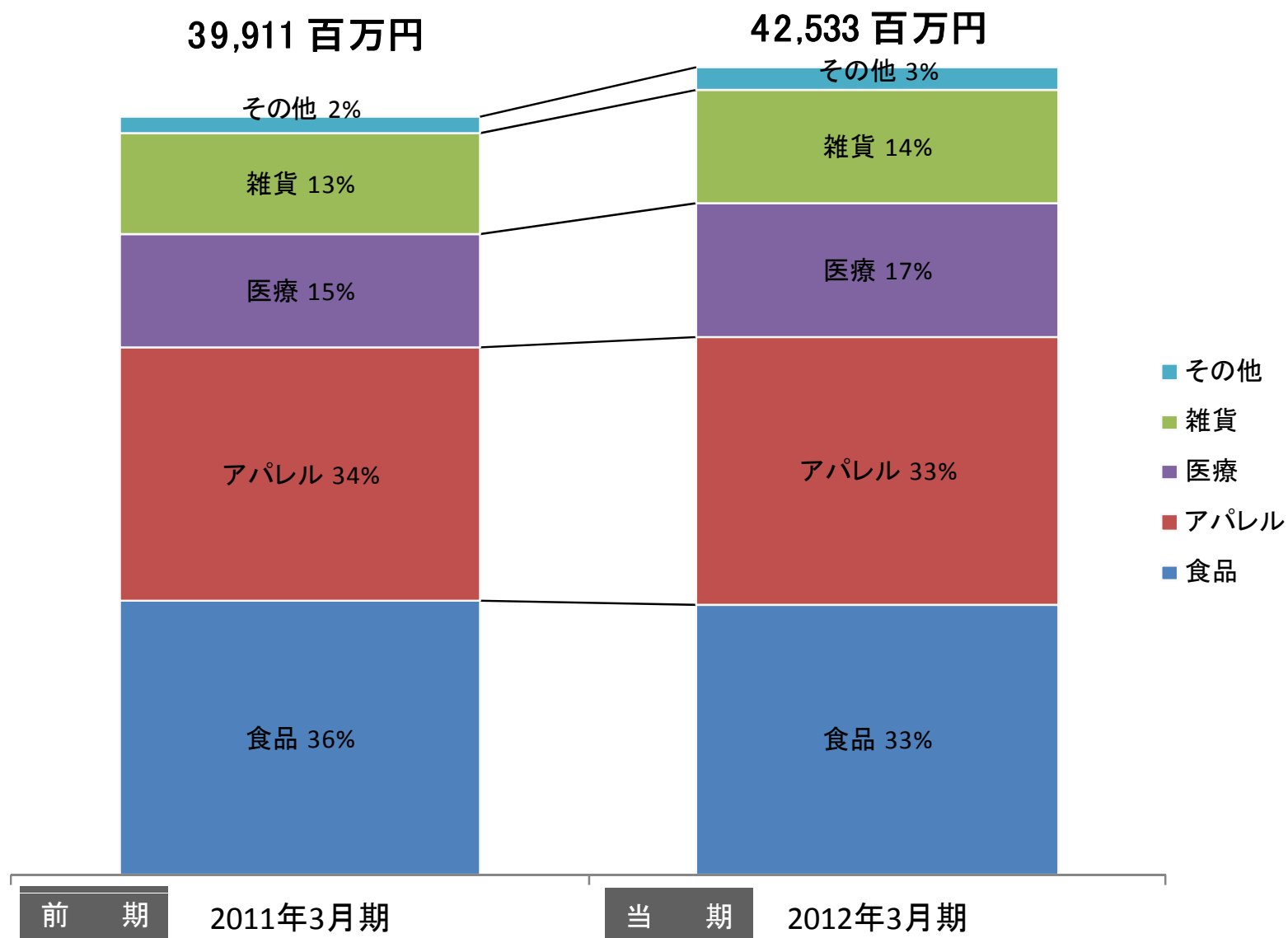


●物流センター数

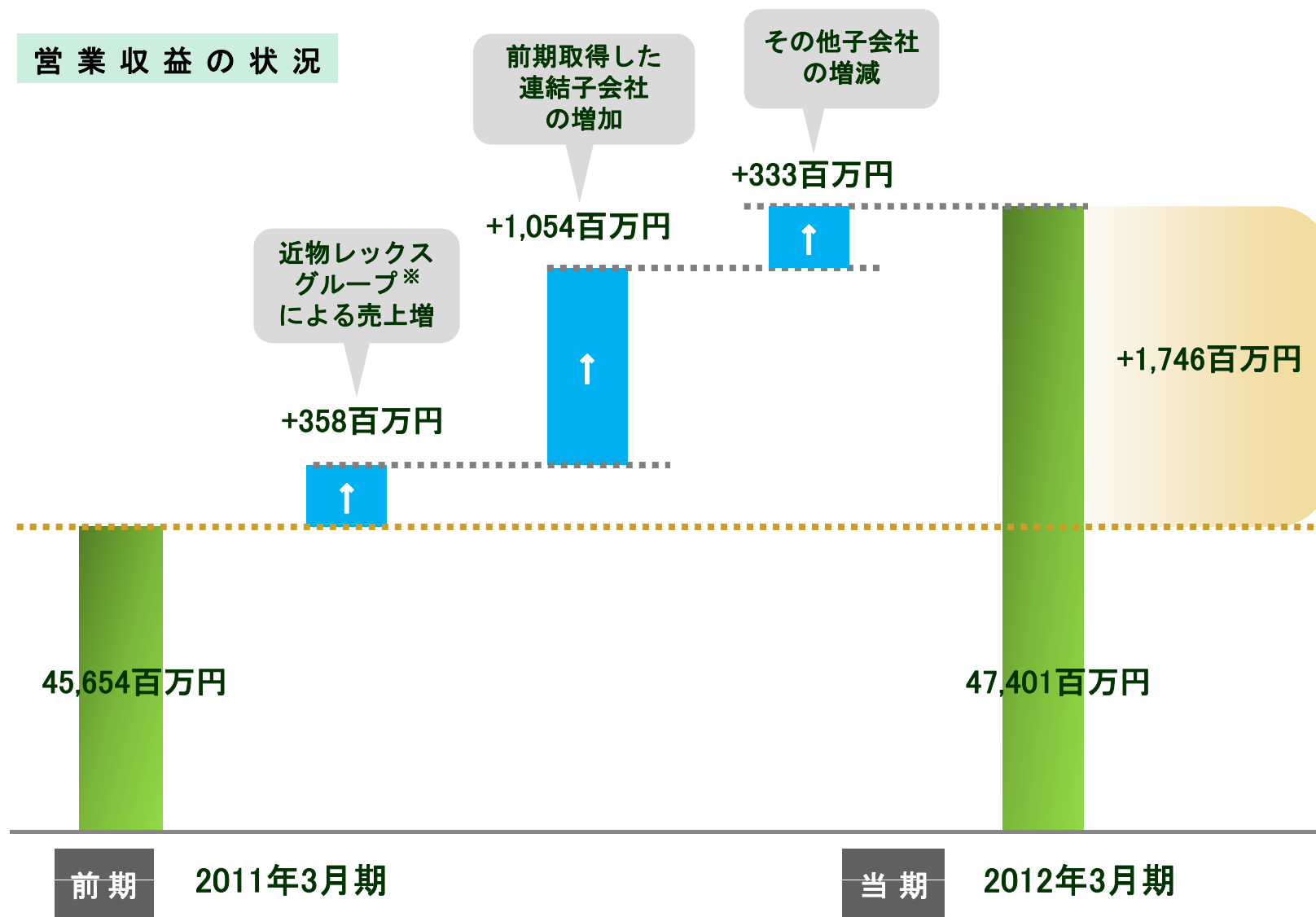
2012年3月31日現在

自社センター	21 (217,326㎡)
借用センター	49 (431,882㎡)
計	70 (前年度末比+7)

Ⅱ-7. 物流センター事業の取扱品目別売上高



Ⅱ-8. 貨物自動車運送事業の概況



Ⅱ-9. 貨物自動車運送事業の概況 2

1. 近物レックスの状況

- 全幹線車両(563台)へデジタルタコグラフの導入
(燃費向上による燃料費7百万円/月の抑制)
- 燃料費の増加(前期比+139百万円)
- 当社と近物レックスでの取引を拡大 (前期比 +305百万円)

2. 輸送能力

- 車両台数 3,161 (自社車両:2,218、リース車両:943)
- 延積載屯数 18,102(トン)



Ⅲ. 2013年3月期計画 及び 中期経営計画

Ⅲ-1. 2013年3月期 業績予想

(百万円)

	連結業績		個別業績	
	計画	前期比 (増加率)	計画	前期比 (増加率)
営業収益	91,000	+1,064 (+1.2%)	36,000	+1,827 (+5.3%)
営業利益	6,900	+371 (+5.7%)	4,300	+248 (+6.1%)
経常利益	6,900	+347 (+5.3%)	4,500	+297 (+7.1%)
当期純利益	3,500	+76 (+2.2%)	2,600	+174 (+7.2%)
設備計画	2,800	***	1,200	***

(平成24年5月10日公表数値)

(百万円)

セグメント別業績予想

		計画	前期比	(増加率)
物流センター事業	営業収益	44,000	+1,466	(+3.4%)
	営業利益	5,500	+291	(+5.6%)
貨物自動車 運送事業	営業収益	47,000	△401	(△0.8%)
	営業利益	1,400	+84	(+6.4%)

Ⅲ-2 . 経営指標

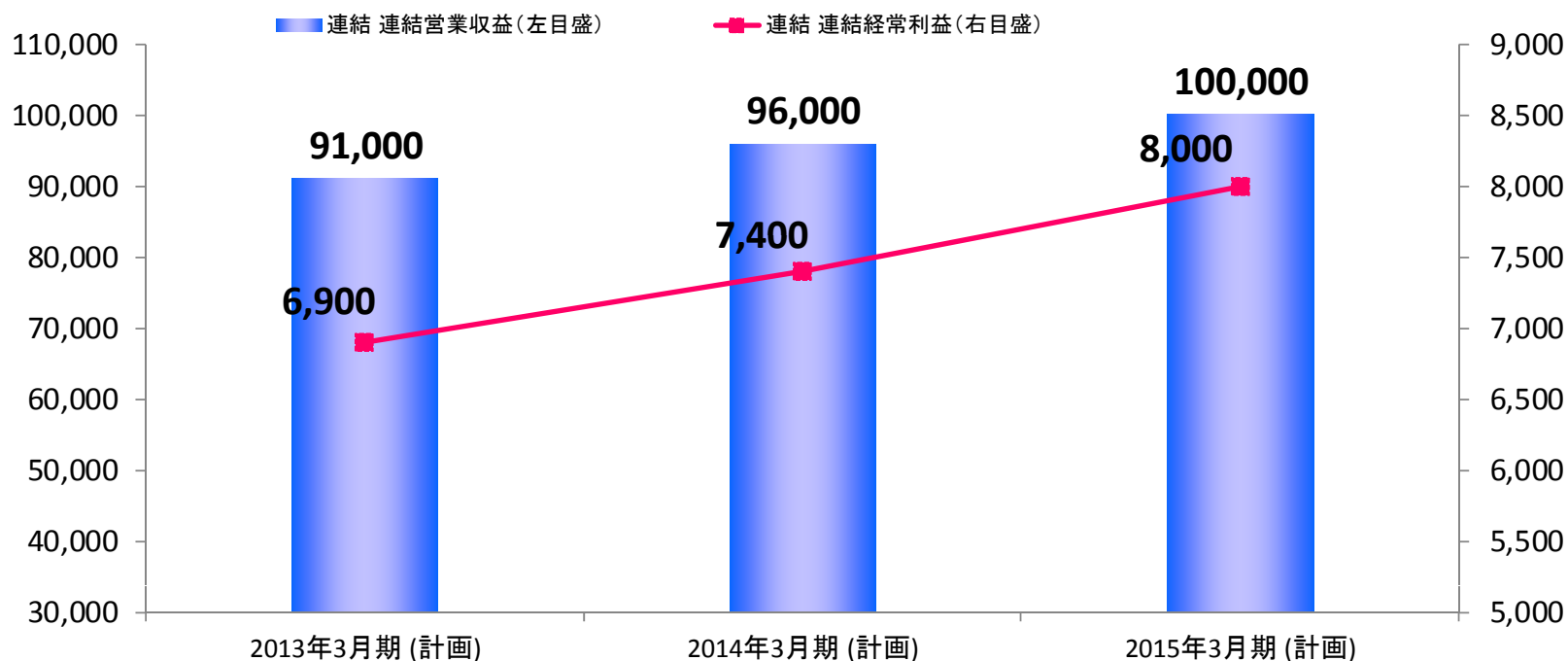
	2009/3	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3予想
1株当たり当期純利益(円) 〔EPS〕	200.47	286.92	339.57	409.84	419.00
自己資本当期純利益率(%) 〔ROE〕	10.5	13.6	14.1	14.9	13.4
1株当たり純資産(円) 〔BPS〕	1,983.94	2,245.82	2,554.02	2,929.91	3,309.91
総資産経常利益率(%) 〔ROA〕	5.3	6.4	7.3	7.7	8.1
営業収益営業利益率(%)	5.2	6.3	6.8	7.3	7.6
営業収益経常利益率(%)	5.0	6.4	7.1	7.3	7.6
1株当たり配当金(円)	30	32	36	38	40

Ⅲ-3. 中期経営計画

(百万円)

	2013年3月期 (計画)		2014年3月期 (計画)		2015年3月期 (計画)	
	連結	個別	連結	個別	連結	個別
営業収益	91,000	36,000	96,000	40,000	100,000	44,000
経常利益	6,900	4,500	7,400	5,000	8,000	5,500
当期純利益	3,500	2,600	3,800	2,800	4,200	3,100
1株当たり当期純利益	419.00	311.26	454.29	335.20	502.80	371.12
営業収益経常利益率	7.6%	12.5%	7.7%	12.5%	8.0%	12.5%
設備投資計画	28億円	12億円	76億円	60億円	28億円	12億円

(2012年5月10日公表)



Ⅲ-4. 今後の取り組み

1. 既存路線を軸とする事業展開(拡大路線)

3PLを成長ドライバーとした戦略の継続

お客様とのコミュニケーションを重視し、**提案型物流企業**をめざす

「営業本部」・「開発本部」・「管理本部」が一体となり、無駄なコストの削減をはかる

2. 3つのキーワードを中心とした取り組みの継続

「日々収支」「**全員参加**」「**コミュニケーション**」の既存路線を踏襲した上で、更なる高みを目指し、挑戦してまいります。

3. 3PL事業とグループ会社の融合

グループ各社の既存の業務にとらわれず、グループ内のインフラ・ノウハウを有効活用した事業展開を図ってまいります

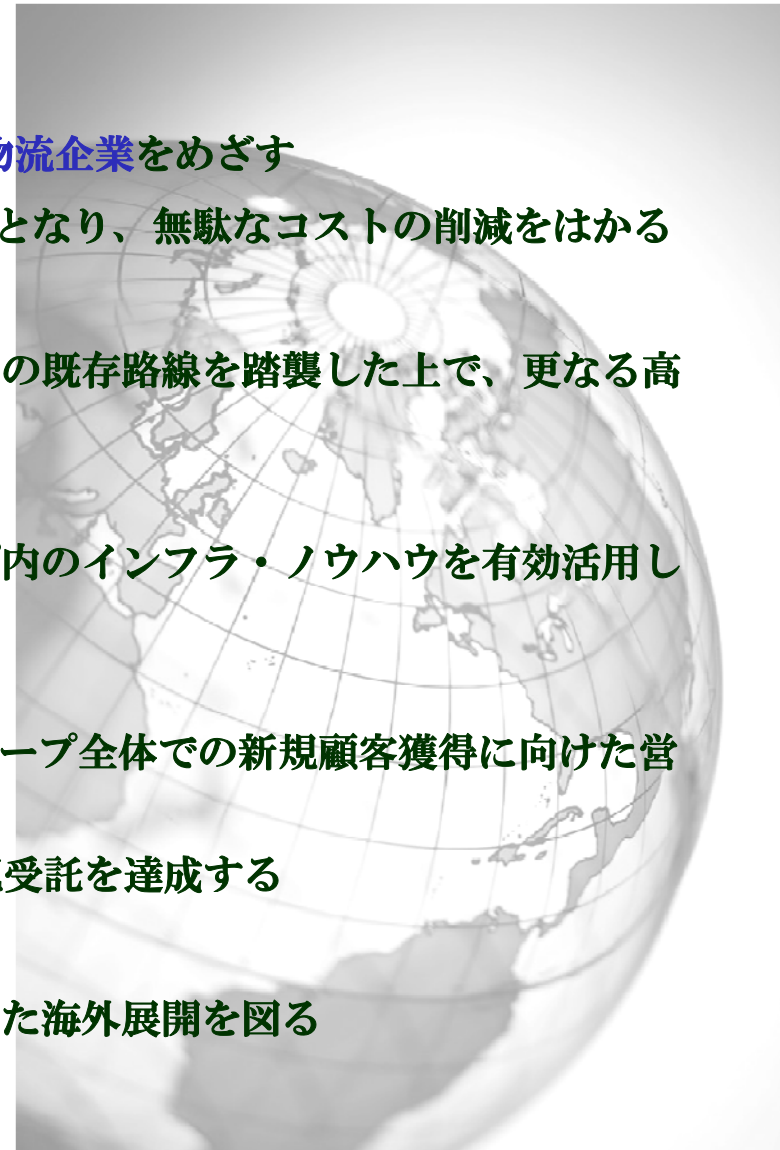
4. 新規顧客獲得に向けた取り組み

既存の組織・職務・各関連会社にとらわれず、グループ全体での新規顧客獲得に向けた営業を行う

物流センター事業での年間受託目標**15社以上**の新規受託を達成する

5. 海外戦略への取り組み

国内の顧客満足度を向上させるため、ニーズに応じた海外展開を図る



IV. 2012年3月期 決算実績

IV-1. 四半期会計期間別（3ヶ月）の業績推移

（百万円）

	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期	
	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)
営業収益	22,373	+1,857 (+9.1%)	22,491	+1,449 (+6.9%)	23,754	+329 (+1.4%)	21,315	+733 (+3.6%)
営業利益	1,609	+145 (+9.9%)	1,569	+77 (+5.2%)	2,164	+138 (+6.8%)	1,185	+371 (+45.6%)
経常利益	1,605	+104 (+6.9%)	1,587	△88 (△5.3%)	2,168	+122 (+6.0%)	1,191	+369 (+45.0%)
当期利益	828	+129 (+18.6%)	813	+13 (+1.7%)	1,143	+78 (+7.4%)	637	+364 (+133.6%)

IV-2. セグメント別四半期会計期間(3ヶ月)の業績推移

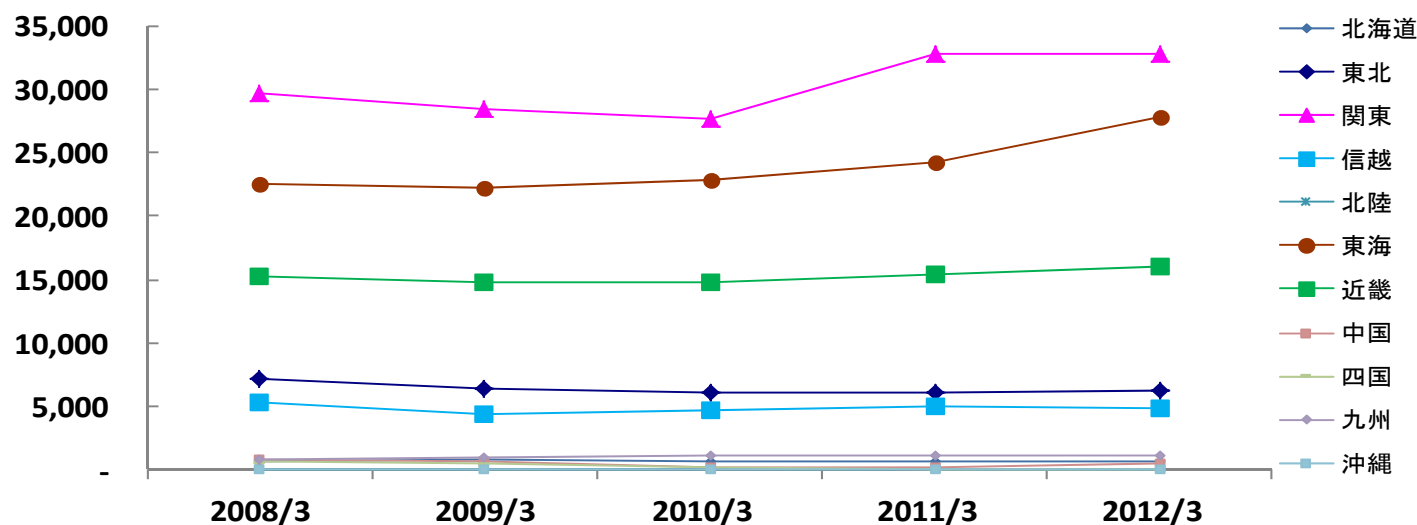
(百万円)

		第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期	
		当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)
物流センター	営業収益	10,613	+777 (+7.9%)	10,488	+498 (+5.0%)	11,498	+659 (+6.1%)	9,934	+687 (+7.4%)
	営業利益	1,415	+124 (+9.7%)	1,154	+51 (+4.7%)	1,618	+124 (+8.3%)	1,020	+281 (+38.1%)
貨物自動車運送	営業収益	11,760	+1,079 (+10.1%)	12,002	+951 (+8.6%)	12,256	△330 (△2.6%)	11,381	+46 (+0.4%)
	営業利益	193	+19 (+11.6%)	413	+25 (+6.5%)	545	+14 (+2.8%)	163	+89 (+121.3%)

IV-3. 地域別連結営業収益の推移

(百万円)

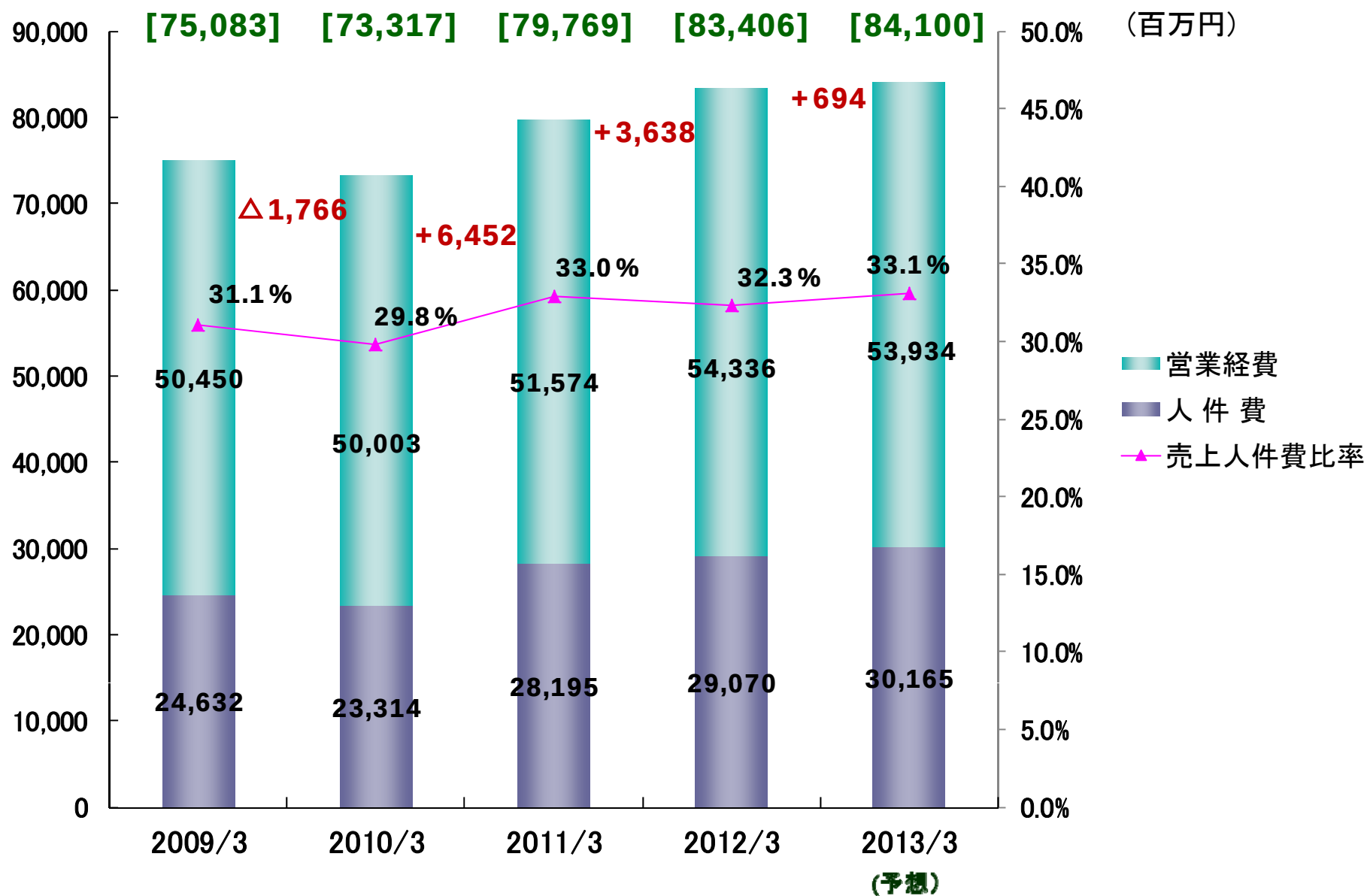
	2008/3	2009/3	2010/3	2011/3	2012/3	(構成比)
北海道	761	779	635	611	645	(0.7%)
東北	7,241	6,401	6,097	6,041	6,196	(6.9%)
関東	29,715	28,381	27,689	32,806	32,849	(36.5%)
信越	5,411	4,343	4,686	5,019	4,797	(5.3%)
北陸	—	—	—	—	—	(0.0%)
東海	22,620	22,182	22,798	24,322	27,860	(31.0%)
近畿	15,247	14,736	14,793	15,426	15,983	(17.8%)
中国	856	721	270	247	455	(0.5%)
四国	749	578	175	—	—	(0.0%)
九州	890	1,064	1,128	1,091	1,147	(1.3%)
沖縄	—	—	—	—	—	(0.0%)
計	83,496	79,190	78,273	85,566	89,935	(100.0%)



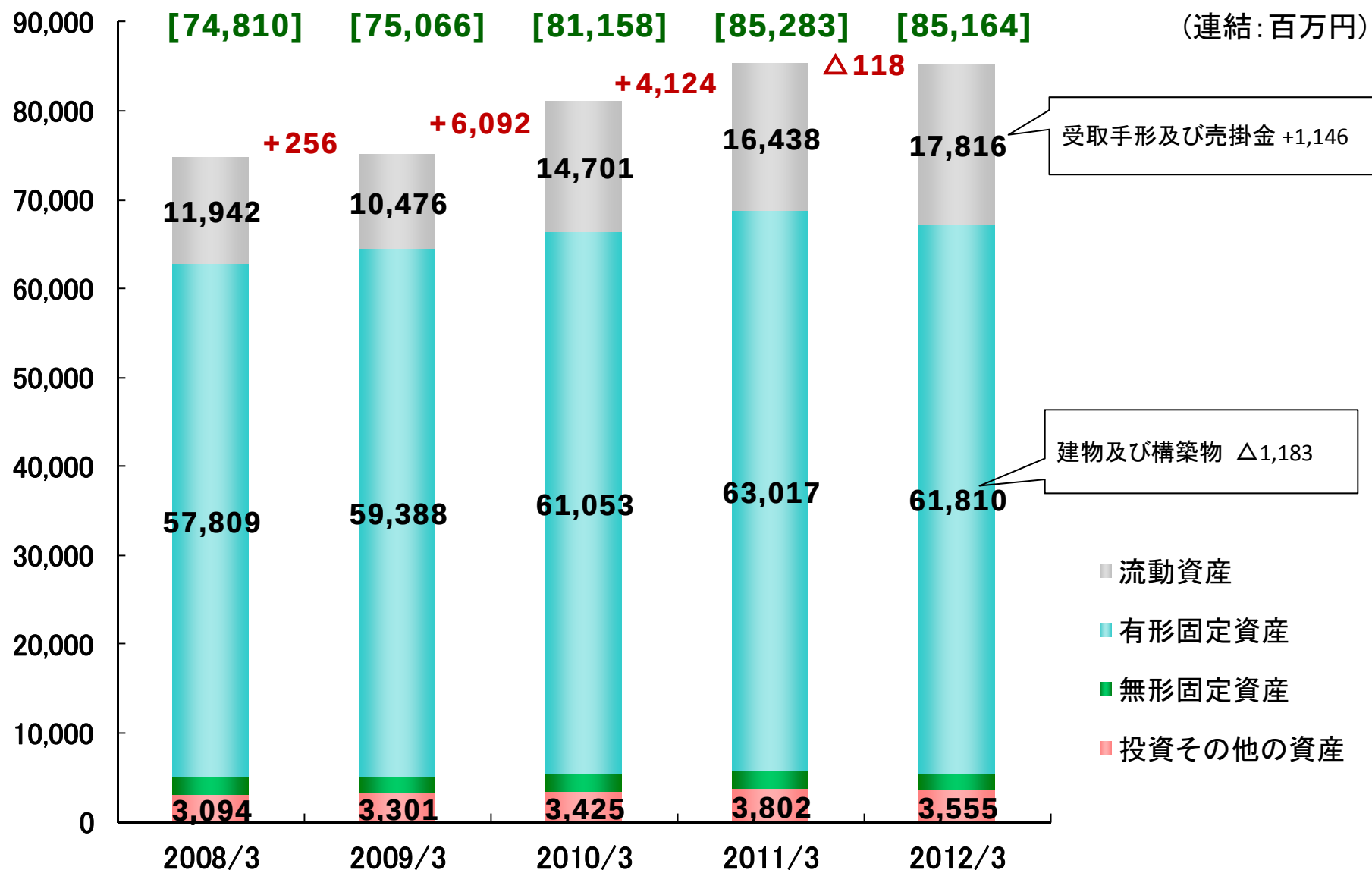
※グループ全体の営業収益

HAMAKYOREX

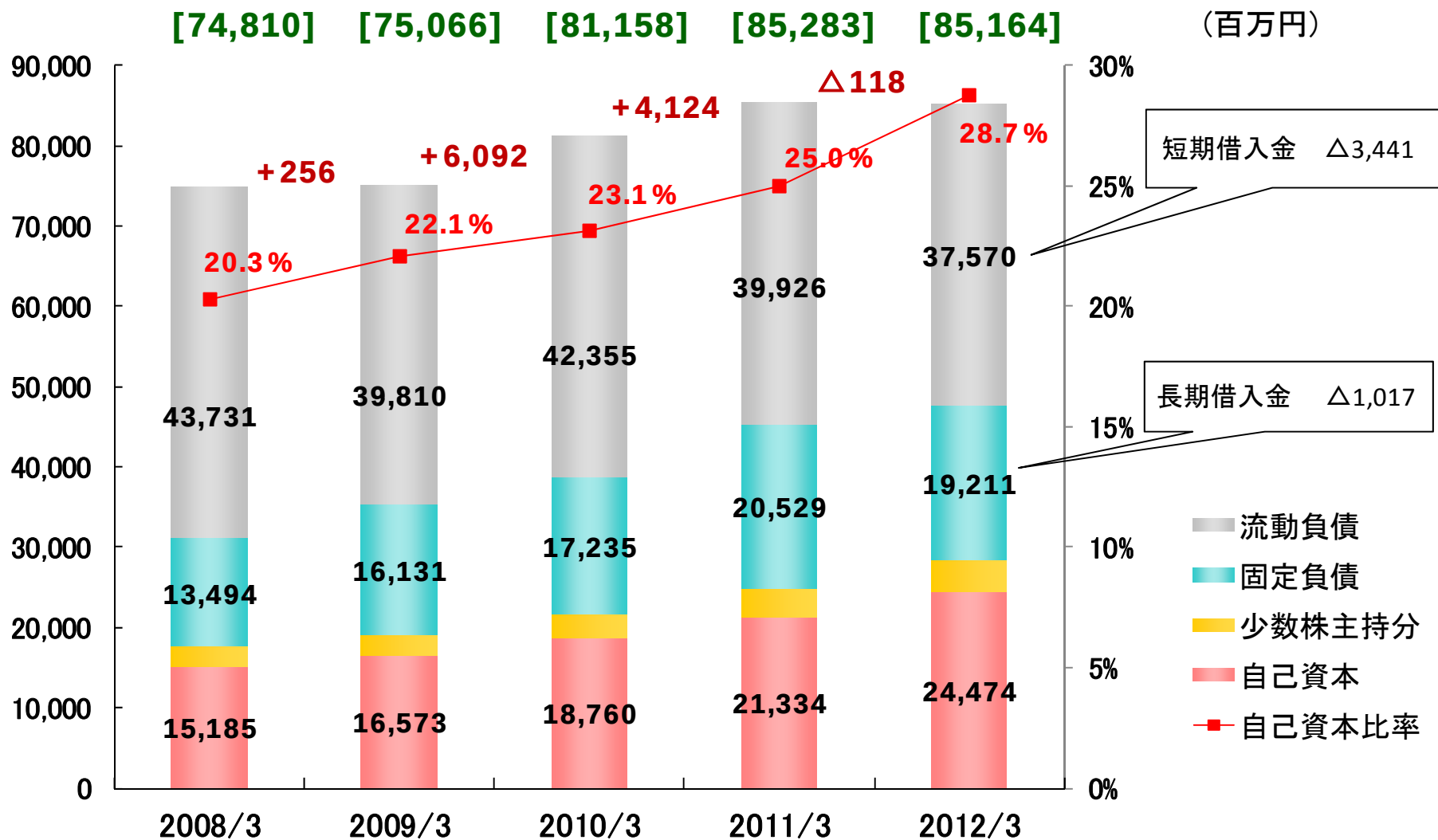
IV-4. 経費・人件費



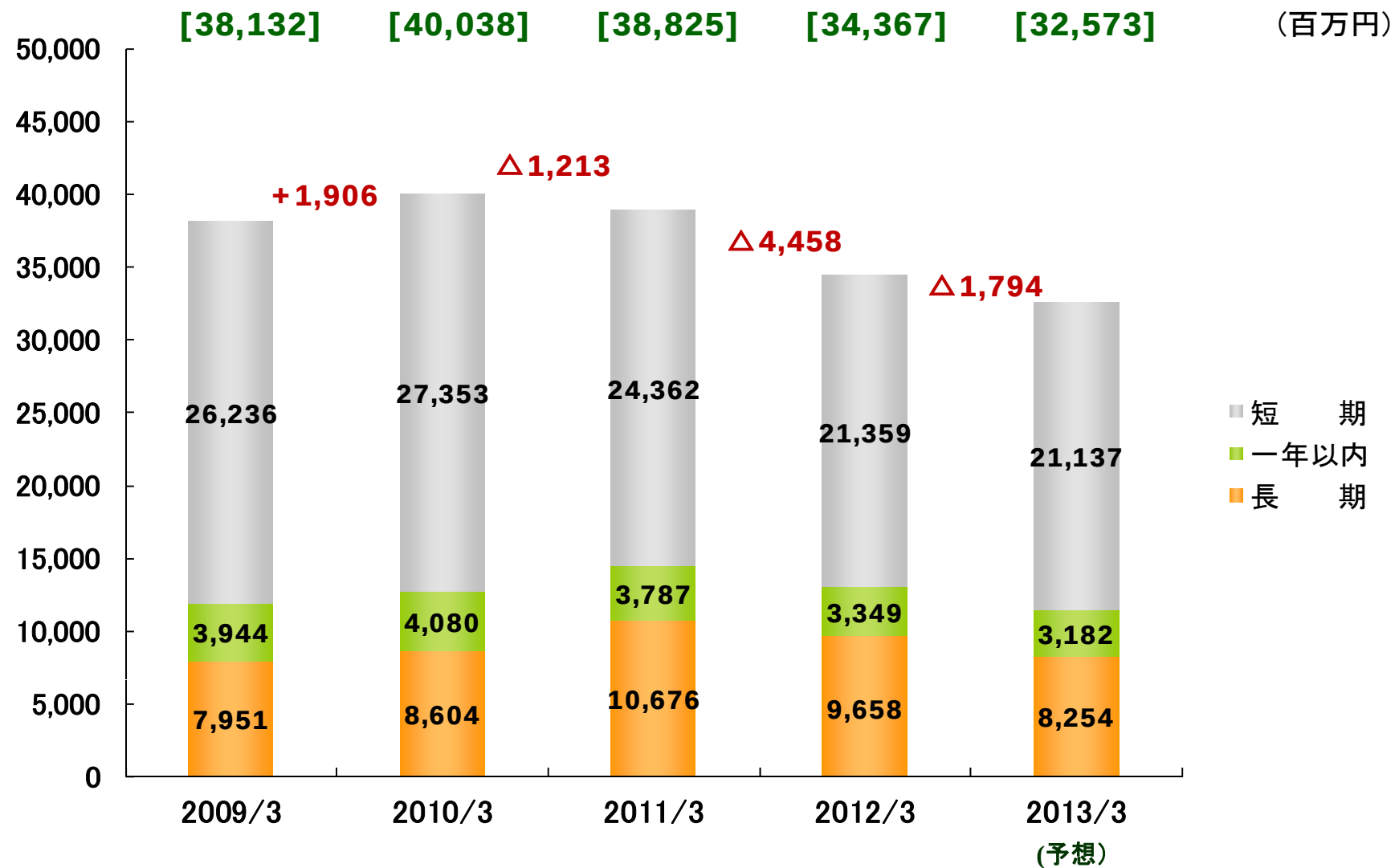
IV-5. 貸借対照表＜資産＞



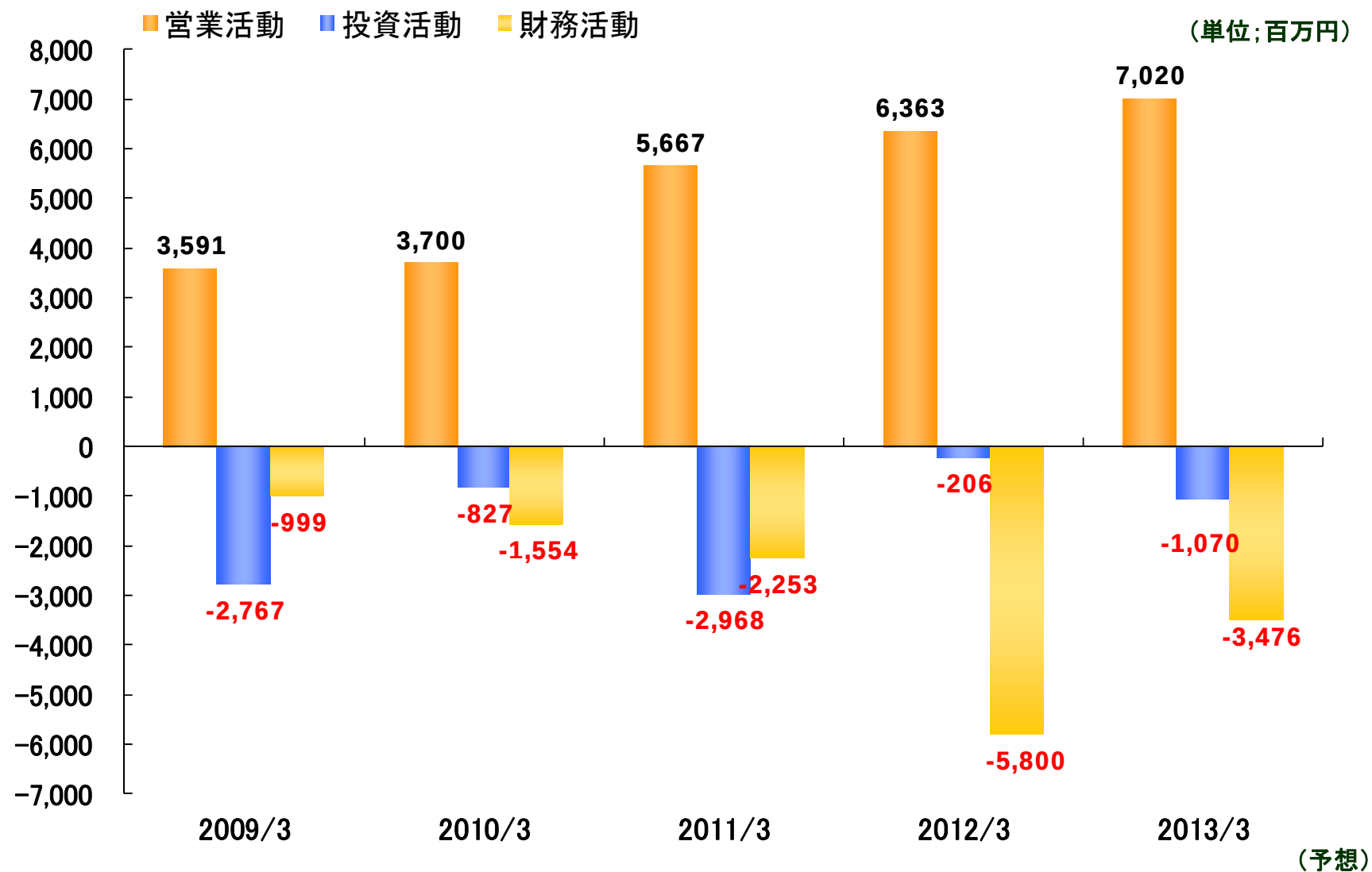
IV-6. 貸借対照表<負債・純資産>



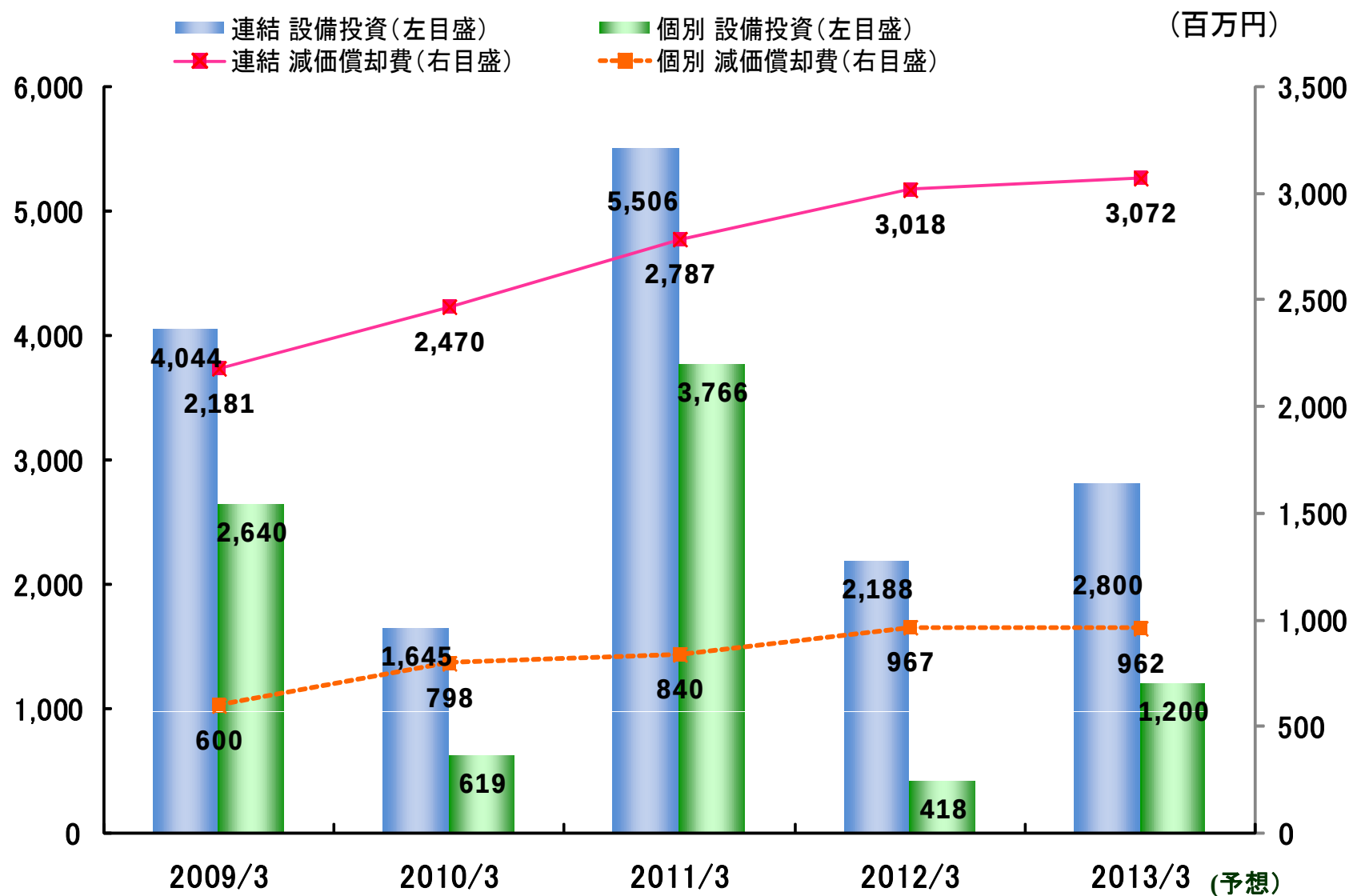
IV-7 . 有利子負債（借入金）



IV-8. キャッシュ・フロー



IV-9. 設備投資・減価償却費



V. 近物レックスの現況と 今後の戦略

V-1. 近物レックス 24年3月期の業績

(百万円)

	実 績			計 画	
	2011/3	2012/3	前期比 (増減率)	2012/3	計画比 (増減率)
営業収益	35,371	35,787	+416 (+1.1%)	36,259	△471 (△1.3%)
営業利益	253	352	+98 (+39.0%)	516	△164 (△31.8%)
経常利益	221	126	△95 (△43.0%)	204	△78 (△38.2%)

V-2. 近物レックスの23年度成果

1. 震災エリア復興
 - ・東北到着量の増加（前年比 上期+9%、下期+12%）
 - ・施設修繕の開始（約2.7億の投資）
2. グループ間取引
 - ・通期目標の達成（積合25% 貸切35% 倉庫35%）
 - ・共同提案での3PL受託（食品スーパー1、日雑1）
 - ・自車倉庫の活用（雑貨1）
3. 営業その他
 - ・営業専任者及び担当者の増員（23年度+18名）
 - ・運賃是正効果（是正顧客賃率前年+6%）
 - ・貸切大口顧客の他社移行
4. 費用管理強化
 - ・外注費用についての日計管理が定着
 - ・運行代車の管理不足
5. 事故「0」への取り組み
 - ・交通事故半減（前年比 発生件数57%、費用52%）
 - ・報奨金支給、全車両への輪留、ネームプレート設置

V-3. 近物レックスの24年度取組み

1. 収入の確保
 - ・既存顧客への提案を含む営業強化
 - ・事業所、倉庫業務の安定運営
 - ・グループ営業での3PL受託、SD報奨金制度の継続
2. 幹線便の再編
 - ・新運行系統の構築（自車稼働率重視）
 - ・東北無料化措置終了に替わる道路費用削減
 - ・他社間との相互乗入れ
3. 労働条件の見直し
人材確保
 - ・時間外労働の日々管理強化（長時間者の撲滅）
 - ・SD、管理職の給与改定
 - ・年間休日の変更による人件費制御
4. 燃料費抑制
 - ・エコ運転制度の導入（評価項目に組み込む）
 - ・新たな購入業者との取引と現行業者の見直し
 - ・小型車へのデジタコ装着
5. 輸送品質の向上
 - ・事故「0」への取組み（交通、商品、労災）
 - ・新HHTの活用

V-4. 近物レックス 業績予想

(百万円)

	実 績 2012/3	計 画	
		2013/3	前期比 (増減率)
営業収益	35,787	36,192	+404 (+1.1%)
営業利益	352	607	+255 (+72.4%)
経常利益	126	317	+191 (+151.7%)

VI. 参考情報

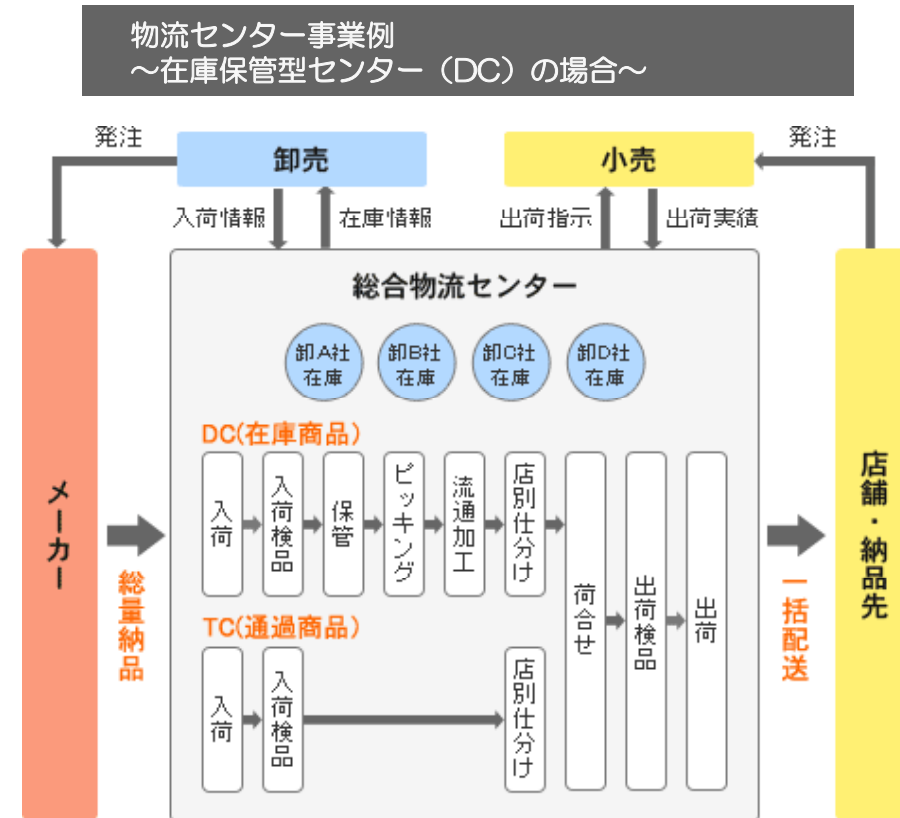
VI-1. 物流センター事業

当社は3PL(3rd Party Logistics)をおこなっております。

3PLとは、『荷主様に対して物流改革を提案し包括して物流業務を受託すること』であり、一般的には、『荷主様が物流業務を外部委託(アウトソーシング)すること』を指します。

3PLの主な目的は、「物流コスト削減」「戦略的ロジスティクスの構築による利益追求」です。

お客様にとって最適な物流通をご提案し、「物流を通じてお客様へ利益を還元する」ことが最も重要な役割であると考えております。



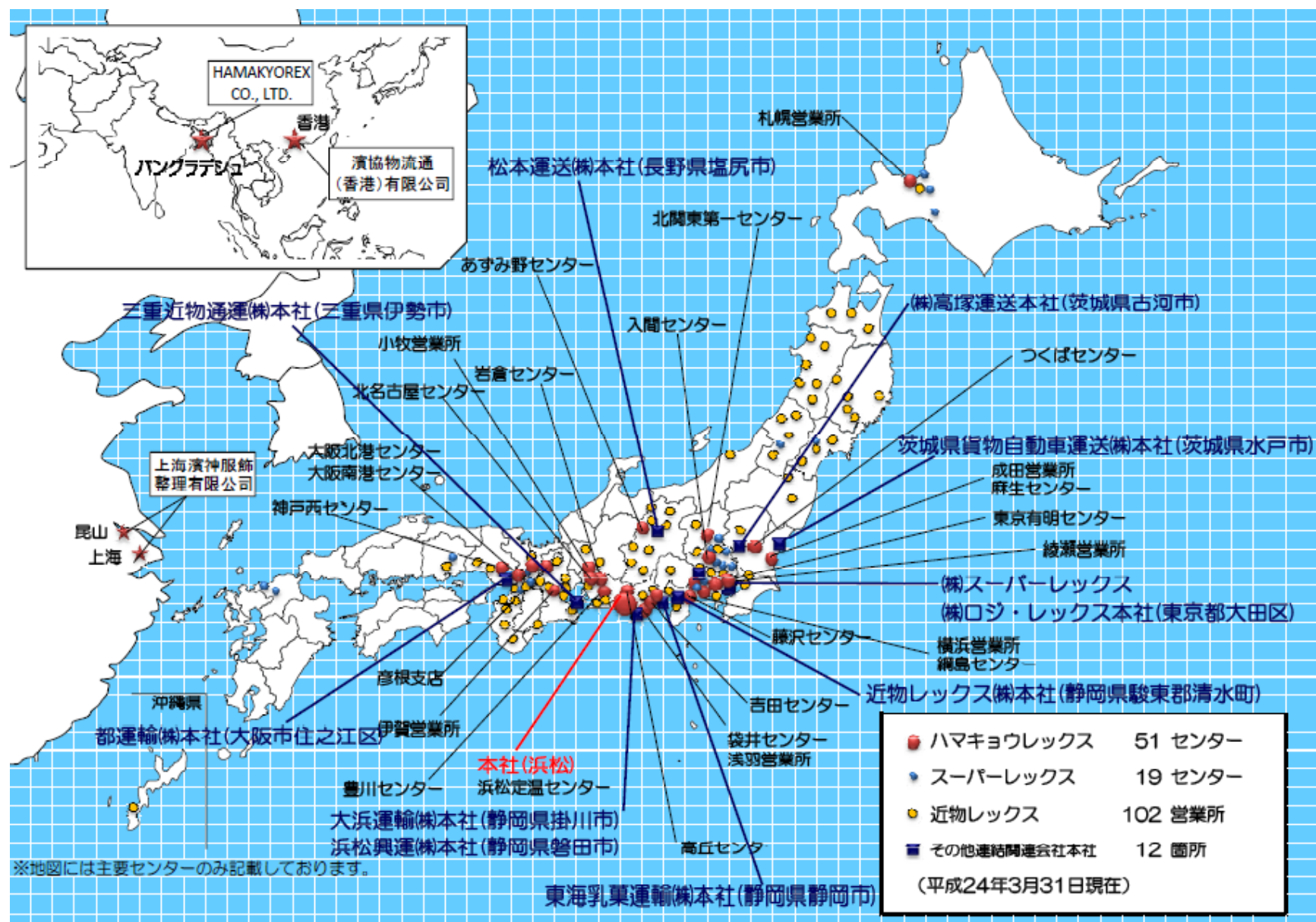
コスト競争力 現場力

当社は、「**コミュニケーション**」を重要視し、社員・パート・アルバイトを含めた「**全員参加**」による現場主導での自社運営を実施。「**日計収支※1**」・「**アコーディオン方式※2**」によるコスト削減を荷主様へ提案し、物流費削減を支援いたします。

※1 日計収支とは、各拠点で、日々決算を行い、その日1日の損益を把握する仕組みです。これにより、その日の問題点を翌日の改善につなげ、日々の無駄なコストを削減していくための当社の仕組みであります。

※2 アコーディオン方式とは、日々の物量(仕事量)にあわせ、最適(最小限)な人員投入を行う仕組みです。これにより日々最適な人員体制を敷くことで、余分なコスト発生を抑えることができます。

VI-3. 拠点紹介



IR関係問合せ先・担当者

- 常務取締役執行役員 山崎 裕康
 - 経営企画室 課 長 石塚 智規
- TEL 053-444-0054



将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。